淀川水系流域委員会殿

（大戸川ダム）日吉ダム利水振替えについての

近畿地方整備局の回答

平成16年3月31日
「関西のダムと水道を考える会」
（代表）野村東洋夫

私達は近畿地方整備局に対し、今年１月１５日付で下記の質問を行いました。
「（大戸川ダム）日吉ダム利水振替えについての質問」
（→第２８回委員会参考資料１、№４３１参照）
その要旨は、集水条件が格段に不利な大戸川ダムに日吉ダムの利水を振り替えることは、ナンセンスとするものでしたが、
この質問に対する回答が同局より届きまして、その内容は私達の主張を認めるものとなっております。
回答一式を添付しますので、ご一読願います。

平成16年2月27日

「関西のダムと水道を考える会」
代表　野村東洋夫　様

国土交通省　近畿地方整備局
大戸川ダム工事事務所

平素は、国土交通行政にご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。

先日、野村様から、「質問書に対する回答がまだである」とのご指摘をいただき、当方で確認させていただきましたところ、ご指摘のとおり回答がお返しできていませんでした。

当方の事務処理上の手違いが原因であり、大変申し訳ございませんでした。

大変遅くなりましたが、回答を作成しましたので送付させて頂きます。

〒 520-2144
大津市大萱一丁目 19 番 32 号
近畿地方整備局
大戸川ダム工事事務所
調査設計課長　今中
TEL (077)545-5675

【質問要旨】

「基礎原案」では、日吉ダムの利水容量の一部を大戸川ダムへ振り替える案が示されていますが、大戸川ダムと日吉ダムとでは、利水容量自体に大きな差違があるだけでなく、集水面積も2倍近く異なり、年間降水量にも差があるため、大戸川ダムにおいて日吉ダムに対応する利水容量を確保するには、従来計画の利水容量を大幅に引き上げる必要があり、このためにはこのダム全体の規模を拡大し、総貯水容量を大幅に増量しない限り、琵琶湖環境改善容量はおろか、洪水調節容量の確保も困難と考えられますが、如何でしょうか？

【質問1】

日吉ダムの利水容量振り替えは、仮に「大阪府」のみの振り替えとした場合でも、上述のように大戸川ダムの利水容量の大幅増をもたらし、洪水調節容量を大きく圧迫するため、このダムの洪水調節機能に支障を来すこととなると考えますが、如何でしょうか？

【質問2】

5月16日の「見直し案」や9月5日の「基礎原案」では、大戸川ダムの新たな目的として"琵琶湖の環境改善"が強調されていますが、この「琵琶湖環境改善容量」の新たな設定は、ダム規模を従来計画より格段に拡張しない限り不可能と考えられますが、如何でしょうか？

【質問3】

上記の試算では日吉ダムの利水団体の内の大阪府のみを振り替えると仮定しましたが、もし京都府を除く3事業体全ての利水容量を振り替えるとした場合は、もっと極端な結果となります。貴整備局の方針をお聞かせ下さい。

【質問4】

上記の試算では、（前提3）で記しましたように、大戸川ダム利水の従来計画に参画している大阪府、京都府、大津市の水資源開発を全て取りやめることを前提としていますが、この点についての貴整備局の方針をお聞かせ下さい。

【回答】

淀川水系河川整備計画基礎原案（平成15年9月5日）の河川整備の基本的な考え方として「淀川下流部の低平地は、日本でも有数の人口・資産が集積した京阪神地域を擁している。また、瀬田川、桂川及び木津川並びに猪名川には、狭窄部が存在し、その上流部の近江平野、亀岡盆地、上野盆地、多田盆地には、多くの人々が生活している。また、瀬田川の上流には、わが国が世界に誇る琵琶湖がある。このような特徴を有する河川は、全国に例を見ない。

1）下流低平地等の洪水氾濫原における市街化の進展に対処するため、堤防の構築、河床の掘削や洪水調節のためのダム建設等の河川整備が行われ、洪水氾濫の頻度は確実に減少した。

しかし、連続堤防によって守られた地域に、人口・資産が集中しているが、かならずしも洪水に対して万全ではなく、ひとたび破堤が生じると人命被害、家屋の損壊、ライフラインの途絶等とい

った被害を受ける恐れがある。さらに、破堤による被害の深刻さ（被害ポテンシャル）は現在も増加し続けている。

また、狭窄部の上流部は、洪水による浸水常襲地帯となっている。しかし、狭窄部は下流への洪水の急激な流下を抑制しており、その処理の如何によっては、上流に治水上の効果をもたらす反面、下流の治水安全度を大きく引き下げるという問題が発生する。これらの問題をいかに解決し、上下流の治水安全度を向上するかが四つの河川に共通する課題である。」とし、狭窄部上流の浸水被害に解消として、「河川整備の方針」では「狭窄部上流の浸水被害に対しては、下流堤防の破堤危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できないことから、既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消を目標として狭窄部上流における対策を検討する。長期的には、浸水被害を軽減する土地利用誘導等の実施が必要であるが、当面の被害軽減処置としては、既設ダムの治水強化、並びに流域内貯留施設の整備を検討する。」としております。

ここにあるように桂川上流の亀岡盆地の当面の浸水被害軽減策のひとつとして、日吉ダムの治水強化を検討することとしております。

淀川水系流域委員会からの基礎原案に対する意見書では「距離的に大きく離れたうえに集水面積も大きく異なるダム間で、例え利水容量が同じであっても、同等の利水機能の振替となるか不明確である。」、「日吉ダムの利水を振替補給をしても、琵琶湖の水位低下抑制をする補給可能量が大戸川ダムにあるか。」との意見を頂いております。

日吉ダムの利水容量の振り替えにおいては、ご指摘の様な課題の他、渇水が頻発している状況で河川流量が少なくなること等があることは承知しており、日吉ダムの利水の振り替え量及び振り替え先として大戸川ダムが有効であるか詳細に検討し、調査検討の結果が明らかになった段階で、流域委員会、住民、関係自治体等に改めて意見を伺う予定です。